

2025年度
市民協働事業
プレゼンテー
ション

子ども安全パトロール

地域で見守る子どもたちの安全

たてやま青空の会



現状の課題と背景



以前、「子ども見守り隊」という組織があったが、スタッフの高齢化、地区での引継ぎがされないなどの理由により、活動が低迷している。



再び子どもの見守りを地域で行う組織を立ち上げたいと一昨年活動を始めた。

→ 積極的に見守りを行う人も増えたが、地域により、活動の広がり、浸透に偏りがある。

→ また、オレンジ帽子を日常的にかぶって外出するという習慣がまだ定着していない。

提案の概要



- * 会員を募って「子ども安全パトロール」の帽子を配布（PTA,地域、老人会などに声がけする）。子どもの登下校の見守りだけでなく、買い物、散歩、犬の運動など出かけるとき、いつも気軽にかぶってもらう。
- * 特に昨年度活動を広げられなかった地域にさらにアプローチして広げていく。
- * 子どもたちには、「子ども安全パトロール」の帽子をかぶっている人は、子どもたちの味方。困ったことや、危ない思いをしたときは頼ってよいと教える。

期待される効果



- * 子どもたちを見守る人が増えることで、子どもを狙った犯罪の抑止になる。
- * 子どもたちの安全を見守り、地域住民の相互の交流を図ることができる。
- * 「安心、安全なまち」という館山市のイメージアップにつながる。

2024年度の活動



- 4月13日 青空の会打ち合わせ
- 4月28日 船形ふれあいまつり 本部テントで帽子展示
- 5月 9日 市民協働事業プレゼン
- 6月 9日 船形芸能祭 オレンジ帽子活動紹介
- 6月21日 総会準備
- 6月30日 青空の会総会
- 7月10日 講演会準備
- 8月21日 連合町内会で青空の会の活動紹介

駐在所の配偶者に帽子進呈



見守り活動の帽子贈呈

たてやま 青空の会 駐在所警察官の配偶者に

児童の見守り活動を活動時に使用するオレンジ帽を贈呈した。子どもたちの安全を見守る活動を展開している。同会は、会員らが買入る物や散歩など外出の山警管内の駐在所警察官にオレンジ色の帽子を贈呈し、見守り活動をかぶって出歩くことを目的。

同署での贈呈式では大和地紀昭会長が、配偶者代表で出席した保田駐在所の豊蔵晴美さん、九重駐在所の蛭川知奈さんにオレンジ帽子を手渡した。

大和地会長は「子どもたちが事故や犯罪に遭わないように、保護者の方にも応援してもらえようと、これくらい広げていく」と話した。

「担い手不足により、は「コメ不足は農政の失敗。コメ不足は一過性の出来事ではない。このまま農家を放置すれば多くの国民が国産米を食べられなくなる」と危惧する。日本の食料自給率は40%を割る。トランプ政権の極端な相互関税によって世界が混乱する。関税が高くとも食料が輸入されればまだいい。地球温暖化が進む。猛暑日が年々増え、降水量も不安定だ。気候変動は農業へも深刻な被害をもたらす。「食料が輸入されなくなっても農家は生きていける。困るのは都市住民」。ある農業関係者が語る。東京都の食料自給率は1.3だ。

2025.4.10 (W)

オレンジ帽子を手渡す大和地会長(右)=館山

2025年4月10日 房日新聞

子どもたちの登下校の見守り



子どもたちをやさしく見守るまちづくり

オレンジ帽子の普及で、子どもたちをたくさんの大人の目で見守る機運を育てる。



子育てしやすい、子どもにやさしい町

館山市のイメージアップにも



収入			支出		
補助金	館山市市民協働事業	50,000	消耗品費	オレンジ帽子購入費 (40個)	60,000
協力金	オレンジ帽子協力金 (40個分)	20,000	通信運搬費	オレンジ帽子案内等 送料	5,000
寄付金	有志団体等から	50,000	使用料	集会、会議等会場費	10,000
			印刷製本費	資料等印刷代	45,000
合計		120,000	合計		120,000



ご清聴ありがとうございました

たてやま青空の会